

午後 2 時18分再開

○議長（中島秀樹君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、14番村上百合子議員の質問を許可します。14番村上百合子議員。

（14番村上百合子登壇）

○14番（村上百合子君） 皆様こんにちは。14番議員、公明党の村上百合子でございます。本日は、年度末のお忙しい中、傍聴いただきまして、まことにありがとうございます。また、インターネットでごらんの皆様もありがとうございます。春3月は別れと出会いの門出のときです。この3月末には、4名の部長を初め、19名の退職者の皆様がいらっしゃるとお聞きしました。長い間本当にお疲れさまでした。長年の功績におきまして、経験されましたことをこれからも市民に向けて、また自分の人生の糧として、健康で頑張っていたきたいと思っております。

私も、この16年間を振り返ってみますと、卑弥呼の湯の建設に始まり、平成18年3月20日は、朝倉市が甘木市、朝倉町、杷木町、1市2町の合併を迎えました。それと同時に、インフルエンザ予防接種の単独助成が実現した年でもあります。子育て支援に大きく朝倉市が一步前進したときだと私は今でもこの感動を忘れられません。

この16年間に3度の甚大な豪雨災害が朝倉市は発生いたしましたが、復旧、復興の最中ではありますが、この災害から1日も早く平穏な日々を取り戻し、安心して暮らせるまちづくりの提案をまた質問席から続けてまいりたいと思っております。執行部の皆様におかれましては、明快な答弁をよろしくお願いいたします。

（14番村上百合子降壇）

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 通告に従いまして、平成31年度市長施政方針について質問いたします。

実現に向けて、分野別の施策を9つの基本目標として掲げておりますので、その主な取り組みについて質問をいたします。

まず、1つ目の基本目標である災害や危機に強く、安心安全が実感できるくらしの実現についてですが、この中に、旧久喜宮小学校跡地を活用して、災害拠点施設及び防災広場を整備するとありますが、内容について、その規模や実施体系をどのように考えておられるのか伺います。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 久喜宮の防災拠点とありますが、この拠点につきましては、市全体の防災拠点ではなく、久喜宮地区の防災拠点の位置づけとして整

備するものであります。災害の発生直後に生じた被害に素早く対応し、被害拡大を防ぐ、被災者に適切な支援を行うなど、瞬時に行政の手が届かない部分について、自主防災組織の機能を有する地域コミュニティに担っていただくものでございます。そのため、地元の要望を踏まえた上で、旧久喜宮小学校跡地に校舎跡地に地域防災拠点施設を建設、学校用地の北側——これはプール側になりますが、そこに地域活動拠点として活用できる防災広場として整備を行うものでございます。施設につきましては、370平米を見込んでおりまして、それを建てまして、備蓄倉庫、調理室、シャワー室、防災研修室を、それから、広場には災害時のマンホールトイレ機能などを備えた駐車場を整備するものでございます。隣接します体育館につきましては、避難所に指定しておるところでございますが、災害時は防災拠点施設で炊き出しをしたりとか、ボランティアや消防との打ち合わせを行うなどしたりする考え方でございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 久喜宮地域を中心とした住民参加型の防災拠点として、規模としては小規模ですけど、災害時にはそういう消防団との打ち合わせもするということではありますが、これは常時使われるような体制で行われるのでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） コミュニティにも使うということでございますので、常時使うということでございますが、防災機能そのものを日常的に行うというよりも、防災機能の発揮のために日頃から訓練をしたりとか、そういったことには使っていくということですが、もし万が一災害が発生したという場合には、先ほど申したような機能を十分に発揮できるというような施設にしていきたいというふうに思っております。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 久喜宮小学校の周りの道路はちょっと狭い道路だったと思いますが、今度拠点として活用するとしたら、杷木地域は、大きな災害を受けています。学校も統合された中で、そういう少し杷木町全体を考えた防災訓練とか、そういうところの活用も検討されているのでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 復興推進室長。

○復興推進室長（梅田 功君） 今回の防災拠点施設整備事業につきましては、国交省の被災地における復興まちづくりの総合支援事業ということで、その申請の内容としましては、防災研修室において、防災講座とか、防災研修、まちづくり講座の開催等、あと調理室においては、炊き出しとか、そういうもの、平常時においても、先ほど久喜宮のほうで3月17日に訓練があるということになっておりますが、そういうことの活用も今後計画がなされるということで、久喜宮

地区の防災計画のほうを、この拠点施設の整備と合わせて作成を今進めているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 今お聞きしたところでは、久喜宮のみのような状態があるんですけども、これが大きな規模で国交省関係の支援もあって入ることでしたら、朝倉市全体の訓練、甘木からというのだったらちょっと遠いと思いますが、杷木全体としてのそういう甘木というフレアスみたいな感じの防災拠点として、久喜宮の人たちが重点的に使うところと、市全体として使うところというような対策はとれないのでしょうか。防災拠点として、そういう拠点が今ないというところから、この建設が進められるということで私はちょっと期待を持って考えておりましたが、その点、どのようにお考えでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 面積的に、先ほど370平米と言いましたものですから、大きな施設ではございません。ただし、先ほど室長が申しましたように、研修とかするような場もあるということです。大規模な研修とかはできないと思いますけれども、やはりそういう会場として活用するというにつきましては差し支えないというふうに思っております。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 災害の起きた地域の防災拠点として、今後この災害が起きたときに、スムーズな指令を、いろんな活動がとれるような対策の場所にしていただきたいと思っております。

2つ目の基本目標に移ります。

人がつながり支え合う活力ある地域社会の創造について質問いたします。市内、17地域、コミュニティの活動を円滑に進めるため、助成金に協働加算を創設し、支援拡大しますとありますが、どのような活動内容で支援されているのか伺います。

また、あらゆる差別解消法や、男女共同参画の推進やL G B Tなどの理解を深めるためには、社会教育と学校教育の取り組みが重要になると思います。あわせて伺いたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） まず、コミュニティ助成の協働加算の考え方でございます。今回、このコミュニティ補助金に上乘せする形で協働加算を創設するとしたものでございます。地域コミュニティに対する住民のニーズが高まっておりますのでございますが、そういう中、市と協働でまちづくりを進める地域リーダーでありますコミュニティ協議会の会長を初めとする役員の活動費用の一部となると考えております。協働加算につきましては、そのようなものでござい

す。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） これは、コミュニティを運営するリーダーとしての、今までコミュニティ会長に対する市からの支援とかそういうのはなかったと思いますが、そういう体制のものでよろしいんですか。事業に対するということではなくて、リーダーに対するということなののでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） リーダーが活用する上で必要な経費、例えば、考え方といたしましては、そういった会長を初めとするリーダーに対します報酬なり謝礼的なもの、それから、会合等の経費について想定をしておるところでございます。この加算につきましては、人の制限といいますか、これに限定するといったものではございませんが、そういったものを先ほど言いました経費について想定をしておるものでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） コミュニティ会長におきましては、地域のコミュニティの規模数とか、いろんな問題もいろいろ取り上げられているところではありますが、もっと事業的に特色を、コミュニティに特色を出した政策を求めるということが以前は掲げられていたと思ったので、私はそういうことかなと思っておりましたが、コミュニティの会長さんはいろんな分野でいろんなことを把握しながら、地域のために活躍している方たちがいらっしゃいますので、そういう面で円滑に進められるための対策だと感じておりますが、その内容でよろしいですね。わかりました。

では、次のLGBTや男女共同参画、いろんな方たちの理解を深めるために、社会教育と学校教育の取り組みが重要になると思いますが、これは、学校教育についての取り組みを伺いたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 中学校におきましては、学習指導要領の特別活動において、思春期の不安や悩みの解決、性的な発達の対応という項目がございます。そこでは、思春期の心と体の発達や性に関する情報を正しく理解し、自己の悩みや不安を解消しながら、自他の人格を尊重した行動ができるようになることについて学習をしております。この項目を受けまして、性的マイノリティについての学習を行っている学校もあります。学習内容といたしましては、性的マイノリティの定義とか、LGBTの意味について学習を行い、性的マイノリティに対する差別や偏見の実態について考え、自他の人格を尊重する生き方をしていくことについての理解を深めているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 私もこのLGBTという問題におきましては、そういう関係者の方たちの話をお聞きしましたが、長年そういうずっと悩んでいる方たちが言葉にできない、自分の意思を伝えられないとか、いろんな思いをしている方たちがいらっしやいまして、血液型のAB型と同じぐらいの人口割にすると、私は左利きですけど、その左利きの方たち、人口の7.6%、13人に1人ぐらいの方がそういう意識を抱えながら、自分の思いを伝えられないという方たちがいらっしやるというのをお聞きしました。実際にそういうことを理解してもらって、やっと活動できるようになったという人たちがいらっしやったんですけども、今、グローバル化の中で、また2020年、来年はオリンピックも迎えますし、そういう方たちに対する理解というか、完全にわかることはできないと思いますが、そういう方たちに対する偏見とか、そういうのをなくすためには、やっぱり大人になってからというよりも学校教育の中で大事な取り組みだと思っております。実際に、市内の学校の状況とかはどういう、そういうことに対するなんか問題とか、そういう実態がありますか。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 具体的には、私たちのほうまでは上がっておりませんが、先ほどは中学校においてというお話をいたしましたけども、小学校については、このテーマが学習を理解をするには、発達段階に十分な理解力があることが必要だろうというふうに考えておりまして、直接的に性的マイノリティの内容を教えていくことについては、小学校では慎重であるべきだというふうに考えておりますが、6年生の社会科の中では、基本的な人権の尊重という学習がございますので、そこであらゆる差別についてやってはならない、してはならないというような学習をして、将来的にこの性的マイノリティの学習をするときの十分理解ができるような土壌づくりをやっています。

あと一つは、今年、30年7月に朝倉市いじめ防止等基本方針を改定をした際に、この中に転入者とか、障害がある方とかいうことに加えて、性的少数者等など、特にきめ細やかな対応が必要となる児童生徒については、その特性を踏まえた適切な支援を行うことにするというので、いじめ防止対策の我々の方針に追加をして、各学校のほうに校長会を通じて徹底をしているという状況でございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 人を尊重するとか、認め合うとかいうことは、とても誰もが健やかに生活できる環境をつくるということで、その人の持っている実力とかをある偏見で発揮できないとか、そういうことはとても朝倉市にとってもマイナスだと思っております。子どもたちの成長に、そういう偏見とか、そういうのを植えつけないような、理解を深めるような教育のあり方が今後求めら

れるのではないかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、同じ2つ目の基本目標の中の審議会での男女共同参画の割合を現在の31.5%から4年後には35%にまで引き上げる目標が掲げられております。現在、審議会の回数と具体的なこの目標に向かっての取り組みを伺いたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 現在の審議会の数でございます。この統計といいますか、数値になるための審議会の数は全体で26でございます。26の審議会のうち、委員総数が273人で、そのうち86人が女性ということで、先ほど言いました31.5%になっておるということでございます。これを、どのような取り組みで35%を目指していくかということでございますが、まず、関係の職場、この審議会を所管しております職場が、この取り組みについて理解を深めていくようさらなる働きかけをしていくことになります。

次に、女性人材リストがございまして、そのリストに登録されている方のさらなる積極的な活用を促してまいります。

それから、委員の選出につきましては、各団体の当て職とされていることが多いという現状がございますので、女性が参加しやすい役職の枠とか、公募枠とか、そういったものを取り入れるということも検討してまいりたいと思っております。さらに、あわせて、近隣自治体の女性職員の登用率の向上の取り組みといったものも今情報を入手しておりますので、そういった発展的な取り組みといったものをきちんと研究いたしまして、参考にしてまいりたいというふうにしたいと思っておりますのでございます。以上です。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） この35%に向けての目標に近づけるよう、またこの4年後、毎年の努力が大事だと思います。これには大変な努力と市民に対する周知が必要だと思っておりますので、そういう努力も重ねてお願いいたします。

次に3つ目の基本目標について伺います。

誰もが健やかで生き生きと暮らせる保健、福祉の充実について質問いたします。

風疹及び麻疹予防接種に対して、妊婦さんや子どもたちと接する機会の多い児童福祉施設などの職員等の無料対策が掲げてありますが、対象範囲とその周知方法を伺います。

○議長（中島秀樹君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 最近の福岡県の麻疹、風疹の流行を受けまして、その感染拡大を防ぐこととしまして、麻疹については、先ほど議員がおっしゃいましたように、児童福祉施設等の職員を対象としております。それから風疹

につきましては、妊娠症候群の発症予防のため、妊婦または妊娠希望者の配偶者及び同居者のうち、風疹にかかる可能性がある対象者に対しまして、予防接種を無料で実施するものでございます。また、国によります風疹の追加的対策といたしまして、過去に公的な予防接種の機会がなかった、現在39歳から56歳の男性に対しまして、こちらも風疹の抗体検査を無料で実施した後、抗体化の低い対象者に風疹の予防接種を定期摂取としてこちらも無料で実施するものでございます。平成31年度は、昭和47年4月2日生まれから昭和54年4月1日生まれの者までを原則対象としているところでございます。周知方法でございますけれども、市報によるお知らせをいたします。それから、児童福祉施設等を健康課の職員が戸別訪問いたしまして、予防接種及び抗体検査の方法等の説明を図っていくところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百百合子議員。

○14番（村上百百合子君） 国の対策で39歳から56歳の男性の抗体検査と予防接種がこの4月からということはいろんな報道で私も耳にしておるところであります。3年間原則無料になるということで、市によっていろんな対策がとられることになると思いますが、このやっぱり周知、市報とかインターネットというのは、よく見ている方は何度も見てあるんですけども、該当する方でもなかなか目にされない方もいらっしゃると思います。そういう方たちに対して、やっぱり受診が無料になるんですから、受診券の配布とかそういうことはこの朝倉市での取り組みとして計画されていますか。

○議長（中島秀樹君） 健康課長。

○健康課長（高木昌巳君） クーポン券のお話ですけども、これも国の指導に入っておりまして、具体的な様式、それから紙質とか、全国統一のクーポン券ということで、それに合わせてつくって、事前に配布を差し上げたいと思います。とりあえず、国の対策は3年ですけども、先ほど部長が申しましたように、1年目は当該該当期間のうちのおよそ半分ということで設定をされておりますけれども、その以降の方についても希望があれば、クーポン券を配布して受けさせていただきますということですので、そのような対応をしてまいりたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百百合子議員。

○14番（村上百百合子君） どういう方が結婚されて出産に立ち会う男性かというのはわからないわけです。もちろん妊婦さんも大事ですけども、そういう方たちがこの年度に入っていなくても希望すれば受けられるという対策を早く周知されることは大事だと思っておりますので、その点の取り組みもよろしくお願いいたします。

それから、では、次の4つ目の基本目標につきまして質問いたします。

次代につなぐ良好な環境の保全です。この市民民間団体、事業者等が補完し合

いながら、共同しながら良質な地域環境及び地域環境の創造を目指してまいりますということで、このごみの適正処理とリサイクルなどの拡大を取り上げております。朝倉市もいろんなごみの分別を市民協働で取り組んでおりまして、私たちもよく参加しておりますが、今、生ごみのリサイクル拡大が大牟田市では既に何年も前から取り組んでおりますし、このごろテレビでは大牟田市でしたか、そういう取り組み、資源としていろんな活用していくということがありますけれども、このリサイクルの拡大の中に生ごみが入っているのでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 市民環境部長。

○市民環境部長（岩下英俊君） お答えいたします。ごみのリサイクル率につきましては、平成9年度より、率については上昇しているわけですが、市民アンケート調査等を行いますと、6割の方がもっと現在よりごみの削減ができるという回答をいただいております。さらに、今後もつたいないという意識を持ち、4R、いわゆる通常は英語で言いますが、断る、あるいは減らす、再利用する、資源を再利用するというような、4Rの推進を行うことにより循環型社会の構築を進めたいと考えております。具体的に、先ほど議員さん申されましたように、現在、食物残渣等につきましては、サンポートへの持ち込みで焼却処分ということになっておるわけですが、今現在、職員のほうで調査研究進めているところによりますと、標準的な4人家庭で1人当たり200グラム程度の食物残渣、いわゆる生ごみの排出があっているというふうに調査結果が出ております。このごみにつきましても、今後、家庭、あるいは家庭でのごみ処理機、あるいは農地等をお持ちの方については活用も当然考えられるわけですが、今現在、3月末を目標にバイオマスの構想を朝倉市のほうでは取り組みをしております。この中で、10年後を見越した今策定をしておるわけですが、食物残渣についても今のところ具体的にありますのは、個人事業所による食物残渣の処理による発電というようなことも念頭に、活動をしておるところでございます。いずれにしても、循環型社会ということで、いろんな分野において、ごみを減らし、あるいはごみを活用していくという循環型社会を目指して、朝倉市も今後進めていきたいというふうに考えております。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 生ごみはとても臭いと思っているんですけども、生ごみは蓋をしなかったら臭くなりそうなんです。それでそれを本当に流しに持っていかないで、そのまま乾燥させたり、いろんなことをすることで、それが立派な肥料になったり、いろんな堆肥というんですか、肥料になったりされている取り組みが、本当、バイオマスもその一つだと思いますが、これが3月末の計画で、4月から実現に向かうということで、取り組んでいるということですけど、どのくらいの規模でされる予定なんですか。

○議長（中島秀樹君） 市民環境部長。

○市民環境部長（岩下英俊君） まだ具体的なものではないんですけれども、民間企業者の希望等はございます。そういったものも織り込んだ今10カ年に及ぶ構想的なものを策定しているというような段階でございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 資源の少ない日本で、私たちが出すものはごみではなくて、資源として循環できるというような対策がこれから求められるんじゃないかなと思っておりますので、この計画がスムーズにいきますよう、取り組みをよろしくお願いいたします。

では、5つ目の基本目標、豊かな地域資源を生かした産業、観光の振興について質問いたします。

朝倉市はどこにも負けない豊かな農産物や自然景観にあふれています。地域の資源を生かした新たな事業や創業支援は、後継者育成のみならず移住促進になると考えています。観光、食、農、魅力発信プロジェクト事業の取り組みを伺いたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 農林商工部長。

○農林商工部長（岩切範宏君） まず産業においてですけども、今、朝倉夢実現サポート事業という名称で新規創業促進補助を行っておりまして、商工会議所と連携しまして、創業塾セミナーの受講者を対象に、市内でスムーズに創業できる環境づくりをするために資金補助として25万円から100万円または家賃補助を上限、月5万円として補助を行っております。いずれか、どちらかということになります。また、平成29年度の新規創業者の中には、甘木絞りを復活させたいという思いから創業に至った若者や全国の園芸店などに植物を出荷する若い世代がおられます。雇用創出は重要課題と取り上げておりますけども、創業支援事業により、若者がつきたい職業にみずから創業し、仕事につくことで、若者の転出を食い止めたいたいと考えています。今後も、商工会議所、商工会と連携しまして、創業塾や各種セミナーの開催、融資相談等を行いながら、若者へのサポート、支援なりをしていきたいと考えております。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子君。

○14番（村上百合子君） この就農支援に対しても、いろんな若い人たちが新たな事業として、自分で取り組みをしたいという思いがあると思うんですけれども、そういう取り組みの支援に対しても伺いたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 農林商工部長。

○農林商工部長（岩切範宏君） 若い世代への支援ということで、ただいま申し上げた内容のもので対応しているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） それでは、地域には埋もれた歴史的建造物というのは、伝統的建造物と違いまして、古民家など、地元の方たちが先祖の思い出とともに大切にしたいと残していきたいと願っているものがあります。その心を形にして、活用できる取り組みを伺いたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 農林商工部長。

○農林商工部長（岩切範宏君） 答弁といたしましては、先ほど申し上げました、創業補助、25万円から100万円の創業に対する補助金でありますとか、家賃に対して月5万の上限、5万円ですけれども、いずれかのメニューということで現在はその補助で対応しているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 私がお聞きした内容が、ちょっとこのごろ国会のお話を聞いていたときに、業務改善助成金の拡充というのがあって、これは、事業者内の最低賃金を800円未満の事業者に対する助成金の内容なんですけれども、朝倉市は最低賃金は780円ですよ。最低賃金は幾らですか。

○議長（中島秀樹君） 商工観光課長。

○商工観光課長（時津美穂君） 福岡県の最低賃金は814円でございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） それで福岡県が載っていなかったんですね。業務改善助成金というのは、もう小規模零細企業に対する支援だったので、とてもいい制度なんですけれども、職員の従事する方たちの給料上げるための補助金ということで、5分の4とか10分の9が支援されるということなんで、とてもいい内容だと思って、私は国会を聞いておりました。余り活用されていないということで、福岡県が載っていなかったんです、調べて資料を取り寄せましたら。朝倉市は800円切っているんじゃないかなと思ったんですけど、815円ということで、「14円」と呼ぶ者あり）、14円、800円を超しているということで、該当しないということなので、これはちょっと取り下げます。でも、ものづくり補助金とかそういう対策もありますので、多くの方たちが、資金繰りに困っている方たちがいらっしゃいますが、そういう対策をもっと商工会や商工会議所と連携をとって、商工観光課の連携を密にしながら取り組んで、この企業とか、後継者になる方たち、また、移住してこの朝倉市のいいところに地元の人気づいていない、そういう取り組みをもっと推進したいという方たちがいらっしゃいます。全国古民家協会の方とお話を聞きましたけれども、朝倉市は、本当に埋もれていますよ、もったいない、資源がたくさんありますということもお話の中で言われました。もっと観光とか、食と農と連携をとった取り組みが必要なのではないかなと思っておりますが、この魅力発信プロジェクトの事業の取り組みについて伺いたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 農林商工部長。

○農林商工部長（岩切範宏君） 魅力発信プロジェクト事業につきましては、仮称ではございますが、秋月さるきマップという事業がございます。庁内体制といたしまして、横断的に取り組みながら、秋月に当たっては、秋月博物館、秋月市場、小石原川ダム、秋月の商店や飲食店などを合わせまして、新たなマップを作成しまして、そこで提供されている商品や食事などを画像をもってQRコードを利用しましてスマートフォンで閲覧できる仕組みをつくり、この効果は検証行いながら、訪日外国人の利便性を図りまして、滞在を促進するような新たな仕組みづくりに積極的に取り組んでまいります。そのように考えております。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百百合子議員。

○14番（村上百百合子君） このプロジェクトに対する連携がとても大事だと思っておりますので、そういう取り組みを充実されるように、もっともっとこれは秋月だけではなくて、朝倉、杷木に通じるような連携をお願いしたいと思っております。

6つ目の基本目標は、快適で住みよい都市基盤の充実ですが、その中に、長年の願いでありました金川方面への道路が開通するということが載っておりますので、喜ばしいことであります。その中に、高速バス、高速甘木バス停の駐輪場の屋根の整備、それから西鉄電車の公営駐車場整備などが上がっておりますが、高速バスの駐車場に対する取り組みがイオンの駐車場借りてとか、取り組みがあっておりますが、あそこの上の公園広場みたいなところの駐車場を整備に取り組んでいただくことで、もっとパーク・アンド・ライドという取り組みになるのではないかなと思っております。高速バスを利用される方はたくさんいらっしゃるんですけども、駐車場がないという、不便だという意見はよく、今でもお聞きしますので、その取り組みも必要だと思っております。その考え方を伺います。

○議長（中島秀樹君） 総務部長。

○総務部長（鶴田 浩君） 現在、甘木インターチェンジ内に駐車場がございますけれども、あの駐車場と申しますのは、料金所関係者や緊急車両の駐車を目的に設置されたものであるということです。高速バス利用者のために設置されたものではないということでございます。高速バス利用者も使っておりますけれども、その使っているというのは、そういう方々に対して、配慮して、空いたスペースを開放しているというような状況のようでございます。空いた部分、公園部分を駐車場に拡張できないかということなんですが、インターチェンジ内の植栽等がございますが、それは、景観の形成のみならず、防音対策とか、交通安全、事故対策等の視点から、整備をされているというふうに聞いておるところでございます。こういった理由がございますので、駐車場の拡張というものは難し

いというふうに考えます。それではどうするかということですが、従来から申し
ておりますように、バス停から徒歩7分の距離、どこかといいますと、イオン甘
木店のパーク・アンド・ライド駐車場でございますが、そこを御利用していただ
きたいというふうに考えているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 私もよく利用させていただいておりますが、やっぱり
昼間とかはいいんですけれども、夜になるとあそこ、とても道も狭いし、街灯が
少ないというところで、余り安全面ではよくないと思います。そして急な階段を
上り下りしなきゃいけないということがあります。ですから、景観的な公園の整
備をもう少し、しないほうが経費は済むわけですから、そういうところの交渉を
もう少し朝倉市もされたらいいのではないかなと思っております。また、このパ
ーク・アンド・ライド的な考え方を言いますと、乗り合いバスの充実も考えられ
ますが、もっと利用者が高齢者の方たちが多く利用している乗り合いバスに対
する考え方を、改善の仕方を伺いたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 防災交通課長。

○防災交通課長（二宮正義君） 高速甘木インターチェンジまでの乗り合いバ
スということでございますと、現状ございませんので、やはりイオンまでの甘木
市街地循環バス等を利用していただいて、高速の利用をしていただきたいと考
えております。以上でございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 余り改善が見られない回答でしたけれども、7つ目の
基本目標に進めさせていただきます。

笑顔あふれ、将来に夢や希望を持ち、活躍できる子どもの育成について質問い
たします。子育て支援は、妊娠期から切れ目なく行うことで、あらゆる利害から
子どもとその家族守り、子育てに対する不安の軽減とともに将来に光と希望を
注ぎます。それが朝倉市の明るい未来に通じることだと思っております。この中
に、宿泊や日帰りの産後ケアを行うための助成について取り組みがありますが、
どのような内容で行うかを伺います。

○議長（中島秀樹君） 健康課長。

○健康課長（高木昌巳君） 平成31年度の予算に新規で計上させていただいて
おります。産後すぐの妊婦さんと乳児を対象に、産後のケアとして、市内の産婦
人科医院、それから助産院、1カ所ずつございますので、そこと、できれば朝倉
市周辺で市内の妊婦さんが比較的通院されています病院関係、産婦人科関係も
含めて、新年度予算が通りましたら、そのケアのための契約を結んで、妊婦さん
とお子さんの孤立を防ぐ、それから健康面の管理上の支援をするという目的で
産後ケアの取り組みをしたいと考えております。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 具体的な内容で、助成金が幾らとか、1回を無料にするとか、宿泊に対するケアの内容を伺いたいと思っております。他市では、そういう13件を、今妊婦検診が14回ありますけど、14回まで受けられないで、出産される方たちが多いと聞いておりますが、その分を産後ケアに回すとか、やっぱり産後ケアというのは、お子さんとお母さんが一緒にいることに対するストレスとか、いろんな体調の不安とかがあるんですけども、一緒に来て、別々にちゃんと対応できるような体制がとられているのかどうか、伺いたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 健康課長。

○健康課長（高木昌巳君） 申しわけございません。詳細の料金等は持ってきておりませんですけども、近隣の市町村で行われているレベルの手当てはしたいと思います。言われるように、委託先が産婦人科と助産院でございますので、別々のケアもできますし、そろったケアもできますし、家庭での育児相談、それから指導、そういったところもできるところに委託をするところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） もう一つ、これは小郡市でとられている内容なんですけれども、産後、今早く退院するようになっています、出産した後。ですから、クーポン券、無料券を配布されているそうです。そういう対策が朝倉市ではとれるのかどうかというのをちょっと伺いたいんですけど。

○議長（中島秀樹君） 健康課長。

○健康課長（高木昌巳君） 先ほど言いましたように、詳細の分が詰めておりませんので、持ってきておりませんけれども、無料にできるレベルのものがあれば、それは検討したいと思います。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 子育てに対する産後ケア、出産して一番子どもと本当に乳飲み子の子どもとかかわるお母さんの負担というのは大変なものがありまして、それなのに退院する日にちが、病院で安静にしていく日にちが少なくなっているというのが今の現状であります。その対応は、将来に続くと思っておりますし、今幼児虐待とかもたくさん出ておりますが、そういうところを未然に防ぐ大きなかわり合いになると思いますので、市の取り組みもしっかり取り組んでいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

次にまいります。8つ目の基本目標は、生涯にわたる学び、活動の推進です。これにおきましては、別枠で生涯学習について上げておりますので、先ほど秋月博物館の機能の拡大とかいうこともお話を聞きましたけれども、ここでは、次のときに詳しく質問したいと思っております。

最後に、9つ目の基本目標として、透明性、効率性の高い持続可能な行財政運

営についてですが、私、この市長の平成31年度の施政方針が出たときには、多くの方がこの内容で質問されると思っておりまして、省いておりましたけれども、この内容におきまして、災害復旧と同時に市民協働の社会に向かう取り組みには、いろんな事業を行う前のパブリックコメントの重要性を考えるべきだと思っております。その取り組みについての方向性を伺いたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 総合政策課長。

○総合政策課長（則松秀樹君） パブリックコメントに関する実施については、以前は、おおむね3週間というようなとり方で、パブリックコメントの実施をしておりましたので、期間が短かったりというようなことが起こっておりました。総合計画を策定するときに、これを見直しまして、3週間以上というふうな形をとるようにしております。周知方法についてもホームページだけでなく、各コミュニティに置くとか、そういうことも、市報にも掲載するというような形もとっておりますので、なるだけパブリックコメントの意見の件数であるとか、人数であるとか、そういうものは充実させていく方向で今いろいろ取り組んでいるところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 期間を長くしたということは、それだけ周知の期間も長くなるということですし、また、パブリックコメントで、ようやく出た意見に対する回答とか、そういうことがちょっと手薄だという意見も出ています。もう少し、こういう取り組みの中で、進めてまいりますとかいうきちんとした回答も出される、パブリックコメントは聞くだけですか、出されていますよね。回答をきちんと対応していただきたいと思っておりますので、それもよろしく願いいたします。

○議長（中島秀樹君） 総合政策課長。

○総合政策課長（則松秀樹君） パブリックコメントいただきましたならば、庁内でその出された意見について、例えば今回の総合計画の場合は、それを当然各課のほうにこういう意見が出ましたよということもお知らせをしながら、回答案をきちっと作りまして、ホームページで公開をしております。ですので、もしかするとメールで送り返せというお話をいただいているのかもしれないんですけれども、パブリックコメント自体の御回答についてはホームページで公表させていただきますというふうにお断りしておりますので、個別具体的にこういう形でやりますというようなやり取りは申しわけございませんけど、御期待に添いかねるかなというふうに思います。ただし、どういう取り扱いをしたかという部分についても、きちんとコメント欄の中に載せておりますので、できれば1回見ていただけるとよろしいかなと思います。以上です。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 本当に、事業を起こす前に、多くの市民の方の意見を聞くというこの体制はとても重要だと思っております。一緒に協働の社会を築くためには、これは欠かせない問題だと思っておりますので、その取り組みの拡大をよろしくお願いいたします。

2番目の子育て支援対策について、今、千葉県の野田市では、小学校の4年生が両親によって命を落とす、いろんな、ことしの初め、5歳の子どもさんが亡くなったことからずっとこの虐待は多くの事件をニュースで流れておりますが、この朝倉市におきまして、早期発見に向けての取り組み、また市内の現状について伺いたいと思います。

○議長（中島秀樹君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） まず、実態について、先に述べさせていただきます。

子ども未来課に配置しております家庭児童母子相談員が対応いたしました。児童相談のうち、虐待に関する相談件数でございます。平成22年度は18件、延べ相談回数が871回でございます。

平成29年度ですけれども、22件で、延べ相談回数が1,041回となっております。

また、22件の年齢別の内訳でございます。2歳までが3人、3歳から6歳までが10人、7歳から12歳までが6人、13歳から15歳までが2人、16歳から18歳までが1人でございます。

また、久留米児童相談署の報告によりますと、管内の児童虐待相談受け付け件数でございますが、平成22年度が113件ございました。しかし、年々増加いたしております、平成29年度では623件となっている状況でございます。

それから、2番目の虐待を早期に発見するための取り組みでございます。早期発見の機会といたしましては、市が行う検診事業、それから乳幼児全戸訪問事業、それから保育所、保育園等の保育事業や幼稚園、小学校などがあります。そのほかにも、市で行っております子育て相談センターあさくらっこや地域子育て支援拠点であります集いの広場、それから、広庭と生い立つにあります子育て支援センター、それから家庭児童母子相談事業で行っております各種相談などを通じて早期発見に努めているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 健診とか全戸訪問に対して、親御さんに会うのは当然だと思うんですけれども、子どもさんにも対応をきちんとされているということでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 現在のところ100%の確率で全戸訪問いたしまして、母と子と両方訪問を行っているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 本当に悲しい出来事が起きておりますが、朝倉市においては、全戸訪問できちんと対応されている。もしそういう発見、今29年度に22名の方がいらっしゃいました。そういう発見されたときの対応の仕方、これが一番肝心なんだと思いますが、そのときの対応の仕方について伺います。

○議長（中島秀樹君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（田中美由紀君） 虐待に係ります通告があった場合でございますが、児童相談所と連携しながら、子ども未来課の職員や家庭児童母子相談員が家庭訪問を行うなどいたしまして、48時間以内に目視による児童の安否確認を行っているところでございます。そこで、重度の虐待の場合には、直ちに児童相談所につなげまして、児童の一時保護を実施し、施設入所または在宅支援等を見守ったりをしているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） やっぱ、早期発見して対応するということ、48時間以内の対応の中で、危険、これは危ないというような対応もありましたか。その内容をちょっと伺いたいと思います。両親とかの対応とうまくいかなかったとか、そういう問題もあるのでしょうか。

○議長（中島秀樹君） 子ども未来課長。

○子ども未来課長（平田龍次君） 過去に朝倉市でこういった虐待に関する事故がなかったわけではありません。平成24年に生後10か月の乳児を母親が絞殺する事件がございました。また、その後虐待死には至らなかったものの、平成27年に小学校3年生の児童の首を絞め、母親が逮捕される事案、平成30年には、生後8カ月の乳児に布団を押しつけるなど虐待を行い、母親が逮捕されるような事案が発生しております。これらの事案についても、その後警察や児童相談所と対応する中で、幸いそういう虐待死という事故には至っておりませんが、そういう危ういケースというのは朝倉市においても生じているところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） その本当に危機一髪で対応されたということですが、その対応の本当、皆さんの御苦勞を、そういう死亡者が、平成24年は本当に今でもと思いますが、本当何カ月かのお子さんが亡くなられたということでしたけれども、そういう悲惨な事故に結びつけないためにも、母子ともに、家族ともに守っていくということが大事だと思っております。子どもの状態を即座に対応する、事件があったような対応の仕方では絶対子どもは救えないということを肝に銘じて、担当の子ども未来課を初めとする健康課、また学校の対応も、きちんと子どもたちの目に沿った対応で取り組んでいただきたいと思います。

ますので、よろしくお願いいたします。

次の取り組みに、生涯学習の推進について、お茶の間学習支援について伺います。市内の市民参加状況、教室と人数を伺いたいと思っております。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） お茶の間学習事業につきましては、学びたい人が自分たちで講座を企画しまして、コミュニティセンターと打ち合わせの上で自主運営をする事業でございます。それを教育委員会が支援をしております。具体的には5人以上の会員が1回の学習時間は2時間以内、月1回以上開催をしていただいて、指導者の謝金は学習者1人につき1回あたり500円以内とし、教育委員会に申請をすることで会場となるコミュニティセンターなどが無料で使用ができるというメリットがございます。その指導者登録数、教室、学習者数の推移を今から申し上げます。

平成26年度でございますが、指導者登録者数は194人、教室数は262教室、学習者数は2,703人、以下、この順で報告いたします。

平成27年度は、222人、252教室、2,598人、平成28年度224人、234教室、2,276人、平成29年度197人、209教室、2,069人、平成30年度、181人、197教室、1,876人という推移になっておるところでございます。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） 私もお茶の間学習発表会に参加させていただきましたけれども、多くの方がいろんな教室の中で学んで、90歳を過ぎる方たちもいらっしゃったということをお聞きしました。この項目の中の演目を見て、こういうのを習いたいなという声も伺っておりましたし、年々指導者に対する高齢化が進みまして、市内の方よりも市外の方が多くなったりとか、中にはいらっしゃって、いろんな負担の軽減もあると思います。またこの多くの方たちが生涯学習の取り組みを朝倉市はしているんだということを知っていただく上でも、もっと啓発のメンバーの方たちがほとんど見ている方なんです。ですから、お友達で見に来ましたという方たちの意見もありましたけれども、本当に市内にいる方たちがもっと参加していただくような取り組みを今後進めていただきたいと思っております。時間がありませんが、一言回答をお願いします。

○議長（中島秀樹君） 教育部長。

○教育部長（高良恵一君） 教育委員会としましても、指導者や学習団体の高齢化で、集まる会員が減少したりして、数を継続していくことが困難になっていることは承知をしておりますので、今後はより一層各地域のコミュニティセンターなどと連携を密にしまして、市民への周知、広報に力を入れまして、若い会員の掘り起こしを図り、生涯学習の1つの仕組みとして継続をできるように努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員。

○14番（村上百合子君） いろんな提案をさせていただきましたが、朝倉市がより住みよいまちになりますように取り組んでいただきたいと思います。一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（中島秀樹君） 14番村上百合子議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後 3 時28分休憩